

あ と が き

前号で核データニュース創刊20周年記念を特集して4名の“長老”の方々に執筆していただいたところ、比較的好評でしたので本号でもさらに4名の方々に特別に原稿をお願いしました。前号を興味深く読んで下さったのは、多分、20年前のシグマ委員会の昔を多少なりとも知っていた方々ではなかろうかと想像しています。若干の人達にはどう受けとめられたのかいささか気になるところです。評判が良かったと言うものの、「昔ばかりを楽しんでいては困る」との苦言もあったようですが、編集委員会としても20年に1度だからと言うことでとり挙げた企画でして、過去は過去として目は現在から将来へと向けなければならないとは重々感じているつもりです。シグマ委員会の昔を語っていただくに相応しい方があと何人もおられますが、20年を振り返る話はこれで一応区切りをつけさせていただきます。

今度の号から、「読者の広場」欄を設けることにしました。編集委員会でも以前から、このような欄をつくるのが議論されていたのですが、たまたま前号で中嶋龍三さんから全く同じ考えの提案があり早速実行に移すことになった次第です。この新設欄の最初には提案者の中嶋さんからの核データの評価についての意見で飾ることになりました。1年半ほど前に、テクニカル・コメントの欄を設けたときも自由に投稿していただくことも含めたつもりでしたが、「テクニカル」とつくると何となく堅苦しい感じになるのを免れないとは思っていました。「読者の広場」欄は、その見出しにも書きましたように、ご批判、書評、随想、提案等々何でも結構ですので紙面を賑わしていただきたいと思います。

すでにお気付きかも知れませんが前号から発行月を1カ月ずらすことになりました。これまでは年3回、1月、5月、9月の発行予定でしたが、前号から発行が2月、6月、10月に、原稿の締切りはその前月の10日にさせていただきました。これまでの発行時期では、原稿をまとめるのが、年末や年度変わりにかかって執筆される方にとっても編集係にとっても不都合なので、運営委員会の了承を得て変更させていただいた次第です。

(浅見 哲夫記)